

総合診療部

1. スタッフ（平成25年4月1日現在）

（ローテート中および派遣中を除く）

部長（准教授）	黒木 茂広
副部長（教授）	杉山幸比古
外来医長（講師）	牧野 伸子
病棟医長（講師）	見坂 恒明
医員（教授）	梶井 英治
	奥田 浩
	石川 鎮清
（准教授）	亀崎 豊実
	岡山 雅信
	三瀬 順一
（助教）	小松 憲一
	神田 健史
	田中裕一郎
	竹島 太郎
	石川由紀子
病院助教	神山 英彦
	森田 喜紀
	上田 祐樹
	山本 祐
シニアレジデント	7名

2. 診療科の特徴

総合診療部は、自治医科大学附属病院の中で、多くの科の医師との関わりのある診療部門である。入院、外来、救急、在宅など幅広い診療活動を行っている。

病棟は、現在16床を固定病床として持ち、入院患者は78.5%が緊急入院である。コモンディーズにおける急性疾患で入院が必要な患者、外来通院のみでは診断が困難な患者、マルチプルプロブレムの患者、終末期の患者など幅広い疾病に対応している。

自治医科大学附属病院では、午前中の新患受付時間帯に、病院正面玄関付近で予約および紹介状のない外来患者の診療科案内を総合診療部の医師が担当し、患者の様々な訴えを聞いて大学病院の多岐にわたる専門科への案内を行っている。不適切な診療科への受診が減り、患者側、医療側の双方にとって有用である。1日平均約21名の診療科案内を行っており、内科系が全体の75%を占める。内科系の新患患者のうち総合診療部は36%を診察している。最近では診断困難症例について他の医療機関からの紹介例も増えてきており、紹介率が増加している。疾患としては、コモンディーズを中心に、診断のついていない患者やマルチプロブレムの患者などさまざまな疾患に対応している。

在宅診療では、毎週2回訪問診療日を設けており、常時10人前後の在宅患者を担当し、24時間体制で緊急入院や在宅看とりにも対応している。

救急関連では、午後の急患当番として救急車以外で来院される午後の救急患者の振分も担当している。

総合診療部では、医学生教育においても重要な役割を担っている。BSLでは基本的な問診、身体診察を重視し、幅広い知識に基づいた臨床推論と根拠に基づいた効率的な検査を行なって診断をつけることを目標の一つとしている。外来診察実習として1日1～2人、週に4日で合計7人/週となるが、1人の初診患者を1人の学生が指導医の下で問診、身体診察まで行い、その後指導医が診察を引継ぐ形で行っている。病棟実習では、主治医チームの一員として、朝の入院レビューカンファレンスやチーム内カンファレンスに参加し、担当患者のプレゼンテーションも行っている。指導医の指導のもとで、問診、身体所見、鑑別診断、治療方針にいたるまで学生自ら考え調べてもらいながら実習を行っており、モチベーションの向上に役立っており、学生にも好評である。診療の質の向上のために、外来では、毎日16時～17時でその日の初診患者全員について診療の振り返りとしてレビューを行っている。また、入院では、毎朝8時から入院患者全員についてレビューを、毎週金曜日8時からスタッフ全員参加のチャートラウンドとそれに引き続き部長回診を行っている。これらにより診療内容の共有と質の向上を図っている。また、適宜エビデンスを文献レベルで調べEBMの実践を行っている。

・認定施設

日本プライマリ・ケア学会認定研修施設
臨床遺伝専門医制度認定施設

・認定医

日本内科学会指導医	黒木 茂広
日本内科学会総合内科専門医	見坂 恒明 他1名
日本内科学会認定内科医	梶井 英治 他10名
日本プライマリ・ケア学会認定医	梶井 英治 他5名
日本プライマリ・ケア学会指導医	岡山 雅信 他2名
日本医師会認定産業医	岡山 雅信 他8名
日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医	梶井 英治 他1名
日本人類遺伝学会指導医	梶井 英治
日本血液学会専門医	梶井 英治
日本血液学会指導医	梶井 英治
日本輸血学会認定医	梶井 英治
日本外科学会認定医	小松 憲一

日本循環器学会循環器専門医 見坂 恒明 他1名
 日本消化器病学会消化器病専門医 山本 祐
 日本科学療法学会抗菌化学療法認定医 見坂 恒明

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数 2,193人
 再来患者数 12,220人
 紹介率 35.5%

2) 入院患者数(病名別)

平成24年入院患者疾患内訳

感染症	151	47.6%
悪性腫瘍	32	10.0%
リウマチ・膠原病関連疾患	21	6.6%
循環器系疾患	17	5.3%
糖尿病・内分泌系疾患	14	4.4%
消化器系疾患	12	3.8%
呼吸器系疾患	12	3.8%
血液系疾患	9	2.8%
精神科系疾患	7	2.2%
神経系疾患	6	1.9%
腎泌尿器系	4	1.4%
整形外科系疾患	4	1.4%
その他	28	8.8%
合計	317人	

平成24年度入院患者感染症内訳

肺炎・下気道感染	63	41.7%
尿路感染	18	11.9%
皮膚軟部組織感染	15	9.9%
化膿性脊椎炎・椎間炎	11	7.3%
感染性心内膜炎	7	4.6%
敗血症(フォーカス不明)	7	4.6%
粟粒結核・結核性リンパ節炎	5	3.3%
胆道系	4	2.6%
その他	21	13.9%
合計	151人	

平成24年度入院患者悪性腫瘍内訳

悪性リンパ腫	8
消化器癌	5
原発不明癌/腹膜癌	5
肺癌	4
腎泌尿器癌	4
骨腫瘍	2
婦人科癌	1
眼瞼癌	1
悪性黒色腫	1
乳癌	1
合計	32人

平成24年度入院患者その他疾患内訳

菊池病	4
横紋筋融解症	3
薬物中毒	3
原因不明発熱	3
薬疹・皮膚炎	3
アナフィラキシー	2
めまい	2
脱水	2
悪性症候群	2
その他	4
合計	28人

3) 手術症例病名別件数

記載事項なし

4) 治療成績

記載事項なし

5) 合併症例

記載事項なし

6) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

総合診療部では、急性期の比較的軽症患者も入院されるが、担癌患者での原発巣の検索などの入院も多く、また、それ以外でもマルチプロブレムの重症患者も対応することも多い。総合診療部での死亡退院症例は27人(入院の8.5%)で、原因として感染症関連15人、悪性腫瘍が7人等であった。また、剖検数は3例であった。

7) 主な検査・処置・治療件数

記載事項なし

8) カンファランス症例

(1) 診療科内

月：教室会議、プロジェクトミーティング、入院レビューカンファレンス、外来レビューカンファレンス

火：入院レビューカンファレンス、外来レビューカンファレンス

水：入院レビューカンファレンス、外来レビューカンファレンス、リサーチミーティング

木：入院レビューカンファレンス、外来レビューカンファレンス

金：チャートラウンド、部長回診、GM/外来症候勉強会、外来レビューカンファレンス

(2) 他科との合同カンファレンス

月・火・木：モーニングカンファレンス

水：感染症カンファレンス

金：放射線カンファレンス

(3) 他職種との合同

在宅カンファレンス

(4) その他

グラウンドカンファレンス：院内各科、院外医師会関係者が参加

4. 事業計画・来年の目標等

2009年度より総合診療部が大学内でも独立した部門となった。大学内での医学教育部門として、学生及び研修医教育の充実と質の向上を大方針としてスタッフの増員が計画されている。

診療部門における総合診療部の診療範囲は幅広く、患者の病態も複雑で診断困難例が多い。また、院内各専門科や院外の地域医療機関との連携を進め、適切な治療や退院後のケアまで円滑に進めることが出来るよう配慮している。こうしたコーディネーターとしての役割を今後も重視し、その指標として入院・外来患者における紹介患者や逆紹介患者数の増加を目指し、地域住民および他の医療機関から信頼される診療を提供できるよう努め、病院全体ひいては地域の医療全体の質の向上につながるよう努力している。

病院内における機能として、従来から行っている外来患者の初期対応や振り分けを継続するとともに、一昨年度発生した新型インフルエンザの大流行等のような病院全体での対応が必要な場合に、本部門の特徴である幅広い診療範囲を発揮すべく、迅速かつ臨機応変に対応出来る組織作りを目指す。